

皆さん、おはようございます。朝早くからこれだけ多くの方々にお集まりいただいたことに感謝申し上げます。今年の第19回の日伊ビジネスグループは、「プリマベラ・イタリアーナ 2007 春」のイベントとして、イタリア側からアゴステイーニ国際貿易省政務次官、ボヴァ駐日イタリア大使、そして日本政府から甘利経済産業大臣にもご臨席を頂き、日本とイタリアの両国の政界・官界・産業界を代表する多くの方々にご参加いただいて東京で開催できること、新しくイタリア会長になりましたジョルジョ・ザッパ会長とともに主催者の一人としてお礼を申し上げたいと思います。

企画はもちろんのこと、会場提供あるいは昼食会設営そのほかにご協力を頂きましたヴァッターニ・イタリア貿易振興会会長、ドナーティ・イタリア文化会館館長、そしてまた、日本側の受け入れにご尽力いただきました日本貿易振興機構の塚本副理事長にお礼を申し上げたいと思います。

ジョルジョ・ザッパ会長は、本年の4月に前任のピニンファリーナ会長から当IJBGの会長職を引き継いでいただきました。昨日も二人で今後のIJBGの在り方について協議をし、EU・アジア共同体の有用性が叫ばれる中、日伊両国の唯一のバイラテラルな会議であるIJBGの役割は、逆に大きくなっているということで意見が一致しました。ここ数年、IJBGでは日本とイタリアにおいて全産業の9割以上を占める中小企業の在り方や、大企業とのかかわり方等について議論してまいりましたが、本年の会議では世界市場を舞台にした企業の事業戦略について掘り下げて考えていきたいと思っています。

経済はグローバル化が進展しており、企業は高い技術の導入、効率的な生産性、品質重視といった取り組みから、国際競争力のあるR&D、あるいは知財戦略に立脚する事業戦略に転換しようとしています。その一方で、マーケットや企業活動、情報、人など、いろいろなものがグローバル化しています。企業活動を測る基準は、グローバル市場の指標で測られるもの、すなわち事業の規模やスピードや利益率など、統一された基準になりつつありますが、本来、それぞれの国の置かれた条件によって、その国の人々は独自の特徴や感性を持ち、時間や空間のとらえ方や季節の感じ方に差があり、当然企業理念やものづくりに対する考え方が異なっています。それが市場のグローバル化の中で均質化していくわけですが、その中でイタリアや日本には他国にない素晴らしい独自の特徴があります。

今日のキーノートスピーカーの奥山さんの言葉を借りれば、これからの世界で必要なのは経験よりも創造力である。日本とイタリアには「職人文化」がある。そしてイタリアには高級品を支える職人の高い技術力があり、日本には様式美など強い美意識があり、職人のセンスやノウハウが文化として息づいていると言われていています。このような日伊の持てる力を結集し、価値創造の新機軸を打ち出すことができれば、世界の人にきっとこれまでにない大きな喜びと価値を与えることができるはずです。

ただいま、ボヴァ大使とイタリア政府の強力なリーダーシップの下、プリマベラ・イタリアーナが大成功のうちに展開されていますが、われわれにとってのイタリアがライフスタイルを含めて非常に身近な存在になってきて、イタリア初心者向けを卒業し、イタリア中級者・上級者のメニューがそろってきて、このイベントに参加した方々は新しい価値や専門的な価値を発見し、よりイタリアに興味を持つようになってきました。

このように日伊間の相互理解は進んでいるにもかかわらず、日伊間の企業交流はわれわれの想像よりも少ないわけで、イタリアから日本への直接投資は5000万ユーロ、すなわち構成比で0.3%。日本からイタリアへの直接投資額はやや多いのですが、2億2500万ユーロ、構成比1.6%にすぎません。このように個人の感覚と企業活動の現実にはギャップがありますので、本年度の会議は日伊間の投資交流の具体的事例を紹介しながら、日伊が共同で世界市場に貢献できるビジネス分野を考察することになります。スピーチの合間には会場の皆さまとのディスカッションの時間も持ちながら議論を進めていく予定です。

IJBGは来年20回を迎えて新たなステージに入ります。皆さまとの積極的な議論を期待して、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞ今日1日よろしくご協力を頂くようお願いいたします。